

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

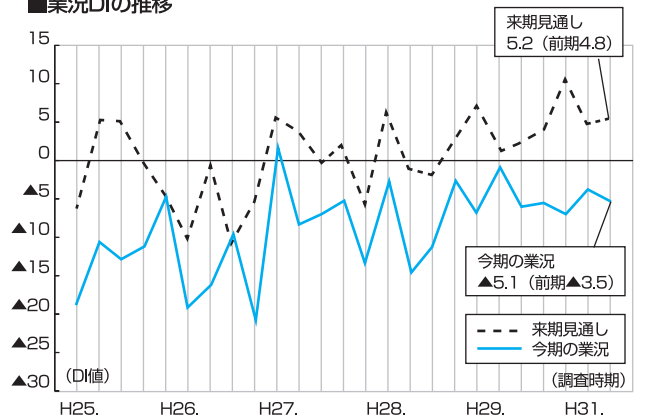
DI値	-25P以下	-25~ -10P未満	-10~ 10P未満	10~ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化	悪化	横ばい	好転	特に好転
	↘	↘	→	↗	↗

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 平成31年1月～3月
回答企業数 161社

■業況DIの推移



【来期(31年4～6月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、5・2
(前期比プラス0・4) ポイントで、
前期とほぼ同じ数値である。サービ
ス業では業況回復の期待感がうかが
えるものの、その他の業種では依然
として慎重な見通しが続いている。

今期業況も引続き一進一退。来期も一部業種を除き慎重な見通し

【今期(31年1～3月期)の景況】

全産業の業況DI値は、▲5・1
(前期比マイナス1・6) ポイント
で前期とほぼ同じ数値である。
産業別に見ると、小売業のDI値
が大きく悪化した一方、卸売業と
サービス業は改善がみられた。特に
サービス業はDI値がプラスに転じ
ている。

【今期の売上額・資金繰り・採算】

全産業の売上額DI値は、1・3
(前期比マイナス4・0) ポイント
と低下。建設業は大きく好転したが、
小売業と製造業は後退した。
全産業の資金繰りDI値は、▲
1・9 (前期比マイナス0・6) ポ
イントで前期とほぼ変わらなかった
が、建設業では改善がみられた。
全産業の採算DI値は、▲6・3
(前期比マイナス5・6) ポイント
と低下。小売業はマイナス幅が拡大
し、サービス業はマイナスに転じた。

【回答企業のコメント】

・資金繰り等の関係で、積極的な販
路拡大に取り組めずにいる。今後
は、WebやSNSの活用による
広報を積極的に行いたい。(小
売)
・慢性的な人材不足への対応が課題。
(建設)
・来期は大型連休が予定されている
ため、集客に力を入れ、売上増加
につなげたい。(サービス)

■産業別DI値表

		前期 [H30.10～12] (A)	前期 [H31.1～3] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [H31.4～6]
業況	全産業平均	▲3.5	▲5.1	→	▲1.6
	製造業	10.3	3.0	→	▲7.3
	建設業	3.7	3.3	→	▲0.4
	卸売業	▲26.1	▲13.0	↘	13.1
	小売業	▲3.2	▲29.0	↘	▲25.8
	サービス業	▲5.9	5.1	→	11.0
売上額	全産業平均	5.3	1.3	→	▲4.0
	製造業	10.3	▲2.9	→	▲13.2
	建設業	▲7.4	13.8	↗	21.2
	卸売業	▲16.0	▲16.7	↘	▲0.7
	小売業	15.6	0.0	→	▲15.6
	サービス業	16.2	7.7	→	▲8.5
資金繰り	全産業平均	▲1.3	▲1.9	→	▲0.6
	製造業	6.9	▲2.9	→	▲9.8
	建設業	▲3.7	6.9	→	10.6
	卸売業	0.0	8.3	→	8.3
	小売業	▲9.4	▲15.2	↘	▲5.8
	サービス業	0.0	▲2.6	→	▲2.6
採算	全産業平均	▲0.7	▲6.3	→	▲5.6
	製造業	6.9	0.0	→	▲6.9
	建設業	0.0	6.7	→	6.7
	卸売業	▲16.7	▲8.3	→	8.4
	小売業	▲6.5	▲25.0	↘	▲18.5
	サービス業	8.6	▲5.3	→	▲13.9